

新四国相馬大師霊場八十八ヶ所と観覚光音禪師

かつての取手は「**取手の春はお遍路さんの鈴の音とともにやってくる**」と言われ家内安全、無病息災、五穀豊穰を祈るお遍路さんが訪れ春の風物詩でもありました。



新四国相馬大師霊場八十八ヶ所(相馬霊場)は、安永八年(1779)六月に、取手の長禅寺の幻堂禪師の法弟であった、観覚光音(かんかくこうおん)によって開設された大師霊場です。本国にある四国霊場八十八ヶ所から安永三年六月に第一番阿波国霊山寺より「お砂」を持帰り長禅寺の境内に相馬霊場第一番として移しました。

安永三年(1774)から安永八年までの5年間で下総国と四国を往復し八十八の札所を完成させました。

従来の説では、相馬霊場は開設時期を宝暦期(1751年～1763年)と称えられていたのですが、近年の研究成果で、札所塔などにより安永期成立に変更せざる得ないとされています。

「取手市史寺社遍」より

相馬霊場の歴史

年代	相馬霊場に関する歴史	備考
宝永八年元旦(1711)	観覚光音は、井出三左衛門の三男として生誕	JR 小海線海尻駅近辺
享保元年(1716)		布施弁天の本堂完成
享保九年(1724)	十三歳の時、浅草の呉服商伊勢屋へ奉公	
元文三年(1738)	布佐の「なま街道」幕府公認の鮮魚街道となる	
元文五年(1740)	常陸国伊奈村豊体の渡辺家再建の為に活躍し成功する。	江戸人口百万人で世界一の大都市の頃
寛保二年(1742)	利根川大洪水、手賀沼氾濫千間堤破壊。	
延享二年(1745)	取手上町にて木綿の商売を始め伊勢屋源六と名のる。取手宿に居住し妻子と暮らす。	享保の大飢饉ピークの頃
宝暦十年(1760)	幻堂和尚の法弟となり出家して観覚光音禪師となる。妻子に店を譲り縁切りした、	田沼意次の新田開発一環で手賀沼開発始まる
宝暦 13 年(1763)	長禅寺の境内に三世堂建立、観音堂の再建	光音の創案による。
明和七年(1770)	取手、我孫子、柏の大旱魃(かんばつ)	翌年も大旱魃
安永元年(1772)		利根川氾濫水害凶作
安永二年(1773)		疫病による死者続出
安永三年(1774)	四国霊山寺より一基を写す	長禅寺の霊山堂第一番
安永四年(1775～)	2回目巡礼、永福寺 57 番から翌年の	
安永五年(～1776)	清滝寺 35 番迄、巡拝順は無視された行動	
安永八年六月(1779)	相馬霊場の完成。	
同年	観覚光音、大鹿に金刀比羅神社を勧進	讃岐の琴平神社写し
安永九年六月(1780)	利根川と手賀沼の大洪水	翌年も大洪水
天明三年七月(1783)	浅間山大噴火、利根川手賀沼は洪水となる	
天明三年十月	観覚光音禪師病死、享年七十三	
天明四年頃～(1784)		天明の大飢饉
天明七年～(1787)	「寛政の改革」が始まる	質素儉約令
寛政三年(1791)	小林一茶が度々訪れるようになる。	享和、文化の時代へ

「下総の 四国めぐりや 閑古鳥 一茶」長禅寺境内に小林一茶の句碑があります。

観覚光音禅師（伊勢屋源六）

伊勢屋源六は、取手宿内で穀物商を営んでいました、伊勢屋は繁盛し取手宿に三件の店を構えるほどになったそうです、源六は多くの人達から慕われ、又自らも取手宿の繁栄の為に尽したと言われていいます。源六は当時、長禅寺の幻堂和尚と親しくなり、やがて和尚の弟子となります。宝暦十年、源六は家も商いも全て妻子に譲り、神仏に帰依する念が強くなり出家しました。

観覚光音禅師は、下総国相馬郡の取手宿や我孫子の村を経文を唱えながら巡り、貧者への施しや病者への救いを行う等、更には荒廃した長禅寺の観音堂改装に於いては、取手に他国からの人を集めて、町の繁栄を計る方法として「さざえ堂」(※)とした妙案といい、そして大師霊場といい数々の功績を残しました。

観覚光音は晩年、取手市白山にある、金刀比羅神社(大鹿山長禅寺の跡地、水戸街道が幕府の命により街道となった折り現在地に移る)の境内(「光音堂」と「光音井戸」が現存する)に隠居していましたが、天明三年十月十七日に病で天命を全うしました。

辞世の句 「日々に 運ぶ歩みの 後消えて 行くとも知らず もとのすみか」 享年七十三、

(※)、大鹿山(だいろくさん)長禅寺三世堂、観音堂は大鹿城主の建立で十一面観音菩薩です。

「百体観音堂(長禅寺の三世堂は百一体です)」を「さざえ堂」といわれており、江戸時代にヨーロッパから伝わったといわれる螺旋型建築似ていて、外装は2階に見えるが内装は3階床の螺旋階段で造られ堂内壁面に、秩父 34 観音、坂東 33 観音、西国 33 観音霊場の写しが百体祀られています。

上りの階段と下りの階段は、それぞれ別で一方通行の為、上りと下りの人達が鉢合わせすることはありません。さざえ堂は江戸時代に本所の羅漢寺に栄螺堂として初めて建立されました。

栄螺堂は会津飯盛山にある国宝三匠堂は有名ですが、長禅寺の三世堂も人気となり諸国から多くの人達が訪れるようになりました。三世堂は県指定重要文化財で、ご開帳は毎年4月18日のみです。



観覚光音禅師像

なぜ、相馬霊場は札所が順番でないか

相馬霊場の場合は光音禅師が四国吉野川沿いの霊場を利根川縁に移す、という構想によって、札所の建立を寺院の住職や檀家に念願して実現したようです、只長禅寺の第五番だけが残りました。右→八重桜と第五番札所。

布川の徳満寺だったようです、当時は取手よりも布川の方が人口も多く豊で、上位の徳満寺としては受入れ難いという理由と思われる。

四国 75 番は善通寺ですが、光音は特に気に入っていた柴崎の東源寺に移し中回向所としました、光音禅師の位牌もあります。新四国や准四国は全国的にみても札所順列は不揃いのように移し先の事情に合わせています。



第5番札所、長禅寺境内